Drug Flag
診療と新薬 2025; 62: 620-621
診療と新薬 Web

「リドマスター DX」の水虫治療における有効性について

株式会社ジェイビー
森　崇徳

はじめに

水虫（足白癬）は日本人の約5人に1人が罹患するとされる皮膚真菌症であり，その治療に効果的な医薬品が求められている。本論文では，第2類医薬品である水虫治療薬「リドマスター DX」の薬理作用について詳述する。

「リドマスター DX」は水虫に有効な9つの成分を含有し，患部に塗布することで白癬菌の殺菌，炎症の抑制，かゆみや痛みの緩和，皮膚修復を促す医薬品である。今回は主成分であるブテナフィン塩酸塩，グリチルレチン酸，リドカイン，アラントインの水虫治療における有効性について詳述する。

1 水虫とは

水虫は皮膚に生息する白癬菌によって引き起こされる真菌感染症であり，主に足の指の間や裏に好発し，かゆみや皮膚の剥がれなどの症状を伴う[1]。感染は湿気の多い環境や家庭内の浴室などから広がりやすい[2]。日本では約2500万人が罹患しており，5人に1人が感染する国民病である。特に中高年男性に多く，不完全な治療下では再発を繰り返す慢性疾患としても知られる[3]。さらに，足白癬は50歳をピークに罹患率が減少するものの，爪白癬は加齢とともに増加し続けることが確認されている[4]。

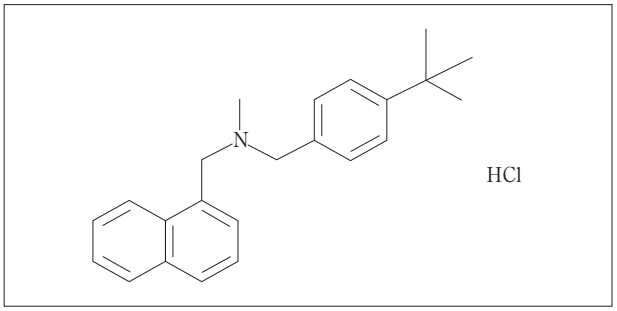

図1　ブテナフィン塩酸塩

2 ブテナフィン塩酸塩について

「リドマスター DX」の主成分であるブテナフィン塩酸塩は，白癬菌に対して強力な抗真菌作用を示す成分である（**図1**）。真菌の細胞膜を構成するエルゴステロールの合成を阻害することで，白癬菌の増殖を抑制する[5]。この作用により，感染部位の白癬菌を効果的に殺菌できる。また即効性と持続性に優れ，8週間の使用で80％以上の治癒率が報告されている[6)7]。

3 グリチルレチン酸について

グリチルレチン酸は甘草の根に由来する成分で，抗炎症作用を有する[8]。抗炎症性メディエーターであるプロスタグランジンの生成を抑えることで，かゆみや発赤といった炎症症状を緩和する[9]。「リドマスター DX」では，水虫による皮膚の炎症を鎮める目的で配合されている。

4 リドカインについて

「リドマスター DX」に含有されるリドカインは，局所麻酔作用のある成分の１つで，ナトリウムチャネルを遮断することで，神経の興奮伝導を抑制し，即効性のある鎮痛効果を発揮する[10]。これにより，水虫のかゆみを迅速に和らげることができる。リドカインは，かゆみや痛みを抑えるため，患者の快適さを向上させる重要な成分である[11]。

5 アラントインについて

アラントインは，皮膚の損傷を回復させる生理活性成分である[12]。「リドマスター DX」では組織修復の目的で配合されている。また，日本皮膚科学会の「創傷・熱傷ガイドライン」では，アラントインには肉芽形成促進作用および壊死組織除去作用があるとされ，これらが創面の治癒を早める薬効につながると報告されている[13]。本成分は，真菌感染に伴う皮膚障害の修復を補助する点で，水虫治療において重要な役割を担う。

6 まとめ

「リドマスター DX」は，ブテナフィン塩酸塩，グリチルレチン酸，リドカイン，アラントインなど複数の有効成分を組み合わせた水虫治療薬である。抗真菌作用・抗炎症作用・鎮痛作用・組織修復作用を併せ持つことで，単一の薬効に頼るよりも包括的な症状改善が期待される。これにより，水虫の早期治療と再発予防の両立が可能となる。

参　考　文　献

1）日本皮膚科学会：皮膚科 Q & A；白癬（水虫・たむしなど）．https://www.dermatol.or.jp/qa/qa10/index.html（2025 年 7 月 30 日閲覧）

2）Mayo Clinic: Dseases & Conditions; Athlete's foot; Symptoms & causes. https://www.mayoclinic.org/diseases-conditions/athletes-foot/symptoms-causes/syc-20353841（2025 年 7 月 30 日閲覧）

3）林　殿聡：https 水虫の疫学．板橋本町皮膚・形成外科ウェブサイト．https://www.itabashihoncho-hihukeisei.com/post/2019/01/24/%E6%B0%B4%E8%99%AB%E3%81%AE%E7%96%AB%E5%AD%A6（2025 年 7 月 30 日閲覧）

4）福田千晶：水虫は冬が完治のチャンス～女性患者も増えている～．時事メディカルウェブサイト．https://medical.jiji.com/topics/2385（2025 年 7 月 30 日閲覧）

5）Syed TA, Maibach HI. Butenafine hydrochloride: for the treatment of interdigital tinea pedis. Expert Opin Pharmacother. 2000; **1**: 467-73.

6）Leyden J. Pharmacokinetics and pharmacology of terbinafine and itraconazole. J Am Acad Dermatol. 1998; **38**(5 Pt 3): S42-7.

7）Saple DG, Amar AK, Ravichandran G, Korde KM, Desai A. Efficacy and safety of butenafine in superficial dermatophytoses (tinea pedis, tinea cruris, tinea corporis). J Indian Med Assoc. 2001; **99**(5): 274-5.

8）Krähenbühl S, Hasler F, Krapf R. Analysis and pharmacokinetics of glycyrrhizic acid and glycyrrhetinic acid in humans and experimental animals. Steroids. 1994; **59**(2): 121-6.

9）Song Y, Xing X, Shen J, et al. Anti-inflammatory effect of glycyrrhetinic acid in IL-1β-induced SW982 cells and adjuvant-induced arthritis. Heliyon. 2023; **9**(5): e15588.

10）Becker DE, Reed KL. Local anesthetics: review of pharmacological considerations. Anesth Prog. 2012; **59**(2): 90-101; quiz 102-3.

11）Foo I, Macfarlane AJR, Srivastava D, et al. The use of intravenous lidocaine for postoperative pain and recovery: international consensus statement on efficacy and safety. Anaesthesia. 2021; **76**(2): 238-50.

12）李　佩璇，志和地弘信，入江憲治，他．ミャンマー産ダイジョ（Dioscorea alata L.）における塊茎の成分特性の品種間差異．熱帯農業研究．2010; **3**(2): 62-9.

13）井上雄二，長谷川稔，前川武雄，他．創傷・熱傷ガイドライン委員会報告－１：創傷一般．日皮会誌．2011; **121**(8): 1539-59.